

エグゼクティブサマリ

1. プリンター市場動向調査

1.1 2021 年の市場実績

2021 年のプリンター市場は全世界トータルで 9,499 万台となった（前年比 99%）。方式別では、ドットインパクト方式が 201 万台（前年比 96%）、インクジェット方式が 6,376 万台（同 99%）、電子写真方式が 2,922 万台（同 99%）となった。

1.2 2024 年までの見通し

2024 年のプリンター市場は全世界トータルで 9,012 万台（CAGR -1.7%）になると予測した。方式別では、ドットインパクト方式は 159 万台（CAGR -7.5%）、インクジェット方式は 5,951 万台（同 -2.3%）、電子写真方式は 2,902 万台（同 -0.2%）と予測した。

本見通しは 2021 年末時点の出荷自主統計調査の結果を基礎データとして、中期的な市場の方向性を予測したものである。2022 年は、新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19 とする）による経済停滞からの回復による需要が見込まれるものの、感染症対策のためのロックダウンを受けた工場稼働停止や部品不足、サプライチェーン問題、ロシア・ウクライナの戦争影響等、今後の世界・地域経済への影響次第では、2024 年の予測台数が大きく変わる可能性もあることについて付記しておく。

2. プリンター技術動向調査

新製品動向調査は、JEITAが作成した新製品調査票を各プリンターメーカー殿に送付させていただき、回収された調査票をまとめ、分析を加えたものである。プリンター新製品の主に技術的な仕様について分析することにより、新製品動向を把握することを目的としている。通常は過去3年分の調査結果と比較など行って分析しているが、対象によってはさらに過去と比較する場合もある。さらに、調査の中から顕著に現れた傾向・特徴、時代のキーワードに関し委員会としての分析をもとに、技術動向として各方式の報告の中に記述している。

本調査は、その年に新製品として日本国内で発売された機種に関して、印刷方式別に情報を収集し分析を行っている。なお、製品データについては以下に列記した各社から提出いただいた回答を用いることを基本としたが、不足・不備等のあった一部のデータおよび回答のなかった製品などに関しては、当分科会の責任において、公開情報を元に補完作業を行っているものもある。

調査結果の分析については、2012年から、それ以前に行われていた過去3年という縛りをなくし、出来る限り長い期間での変化を見た分析を行っている。これは各方式が技術的に安定してきており、3年間ではその変化が見えづらくなってきたためである。ただし、調査・分析の連続性維持などの理由により、各方式及び各項目において分析期間が異なる点については、ご了承ください。

また、電子写真方式とインクジェット方式においては、これまでSFPとMFP（インクジェット方式はこれに加えてLFP）の分類で分析を行ってきたが、電子写真方式においてはPOD用途向けのプリンター、インクジェット方式においては事務用途向けのプリンターの台頭が見られるため、各方式においてそれらの用途について、SFP/MFPの分類とは別の切り口で分析を行っている。特にインクジェット方式では、調査項目に「プリンターの用途」を追加し、SFP/MFP/LFPというプリンターの分類だけでなく、2014年より用途別での技術動向の分析を加えている。

なお、2017年より本技術動向についてはインクジェットプリンターの用途について以下のように定義して分析を行っている。

- ・「家庭・個人用」：一般の家庭向け、個人向けを想定したもの
従来の高画質写真用の機種もこの分類に含む
- ・「事務用」：一般の事務所向けを想定したもの
- ・「業務・産業用」：主として印刷物を商品とすることを想定したもの
家庭・個人・事務用以外で業務用向けを想定したもの

今回調査した 2021 年発売の製品も含めた過去 12 年分の方式別新製品機種数の推移数を表 2.1 および図 2.1 に示した。

電子写真方式の発売機種数は、方式別では例年どうり機種数は最大であった。2021 年は、SFP (POD 含まず) 新製品が 5 社から 14 機種、MFP (POD 含まず) 新製品が 6 社から 77 機種、POD 新製品が 2 社から 15 機種 (SFP : 8 機種、MFP : 7 機種) 発売されている。2021 年は、全体で 106 機種であり、2007 年以来での 2017 年に次ぐ 2 番目に少ない機種数となった。今後の動向に注目したい。

インクジェット方式の発売機種数は、2021 年は 61 機種であった。2021 年は、4 社から 11 機種の SFP 新製品、3 社から 23 機種の MFP 新製品、5 社から 27 機種の LFP 新製品が発売された。SFP、MFP、LFP の何れも発売機種数は増減が繰り返されている。SFP、MFP は 2020 年に続いて発売機種数が少ない年であった。LFP は 2020 年の 18 機種から 27 機種に増加した。SFP、MFP、LFP を合せた合計機種数の推移は、2007 年以降増減を繰り返しながら 2018 年にピークを迎えたが、2020 年には 2018 年比で約 60% となり調査期間での最低を記録した。2021 年はやや増加したものの、前年対比で LFP の発売機種数増によるところが大きい。今後の動向に注目したい。

感熱・熱転写方式の発売機種数は、2021 年は 3 機種であった。2021 年は、2 社から 3 機種の新製品が発売された。2021 年は、産業／商業／業務用プリンターのみの発売となった。機種数は前年より 9 機種減少しており同様の傾向が続くのか、今後の動向に注目したい。

ドットインパクト方式の発売機種数は、2021 年はなかった。今後の動向に注目したい。

2.2 以降に方式別の動向分析結果を示す。

表 2.1 方式別新製品機種数推移

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
電子写真 (EP)	108	149	132	177	110	149	172	91	149	149	140	106
SFP	43	45	32	35	31	39	48	42	20	40	29	14
MFP	50	99	85	123	60	103	113	36	109	93	91	77
POD	15	5	15	19	19	7	11	13	20	16	20	15
インクジェット (IJ)	71	66	78	63	97	73	78	72	103	89	60	61
SFP	13	12	17	9	16	6	9	12	19	14	15	11
MFP	29	33	39	34	47	28	26	41	34	35	27	23
LFP	29	21	22	20	34	39	43	19	50	40	18	27
感熱・熱転写	15	11	6	1	8	3	14	8	7	9	12	3
ドットインパクト (DI)	2	6	7	4	5	9	1	3	6	5	3	0
シリアル	2	4	7	4	5	9	1	3	6	5	2	0
ライン	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

機種数

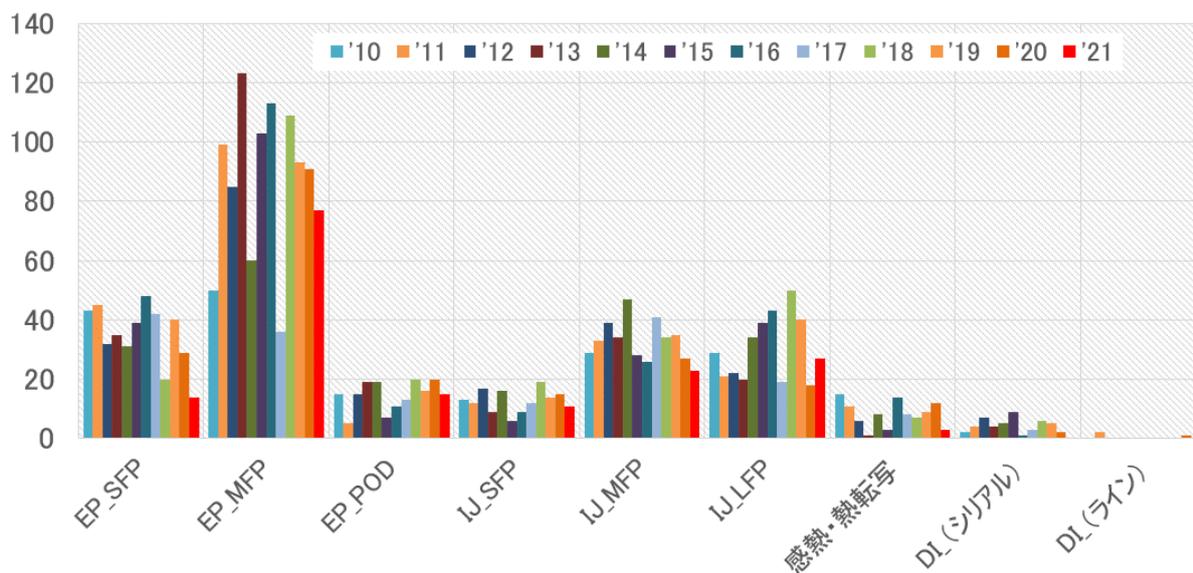


図 2.1 方式別新製品機種数推移

プリンターの呼称について（解説）

本年度の報告書では、プリンターの呼称について下記のように用語の統一を図った。

プリンターの用語表記については、「JEITA IS-15-情端-7 プリンターカタログ用語集」(<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=873&ca=1>)を参照されたい。

・電子写真プリンター

定義：感光体面に静電潜像を形成させ、トナー等により現像後、普通紙等に転写、定着させる方式を用いたプリンター

(注釈1)「ページプリンター」を電子写真プリンターとして使用する場合は、「ページプリンター」は「シリアルプリンター」や「ラインプリンター」と並んで印刷動作を示す用語に位置づけられているため、印刷方式としては「電子写真プリンター」の用語を使用することとした。

・インクジェットプリンター

定義：インク粒子や小滴を用紙に噴射させて文字や画像等を形成する方式を用いたプリンター

・ドットインパクトプリンター

定義：文字や画像を複数の点（ドット）で表現し、それぞれの点に対応する印刷ヘッド内の金属製のワイヤーを、インクリボンの上から媒体に対して打撃することで印字する方式を用いたプリンター

・感熱・熱転写プリンター

定義：記録用紙の感熱媒体に熱を与えることにより化学反応を与えて可視像を形成する方式、または記録用紙に接触させたインクリボンあるいはインクシートに熱を与えることによりインクを用紙に転写する方式を用いたプリンター

(注釈2)「プリンター」は、出力機器という意味と、複合機あるいは「MFP (Multi Function Printer)」に対する単機能機の意味で使用される場合がある。本書では、特に断りがない場合は「出力機器」という意味で使用する。特に、単機能機に限定する場合は、「単機能機」あるいは「SFP (Single Function Printer)」と呼称する。